

乱読



光陽ファイナシャル社長 高橋 清正

逆と考えがちだがそうではない。と。そして中世の人はそのことに気づいていて、[「方丈記」]を例にあげます。有名な冒頭の「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず」は、まさにそのことを示している、人間も世界もまったく同じで、万物流転である、と。

私の趣味はあえて言えば読書ということかも知れませんが、事あるたびに部下にも本を読むことを勧めています。私の経験では、どんな本の中(タマにはハズレもある)にも自分の知らない事との出会いがあるからです。今まで知らなかった事に出合うたびに、一種の「感動」に似た喜びを感じます。

最近読んだ本に「バカの壁」という本があります。その中で著者は、情報とは不変のものであり、変化しているのは人間の方だ、と主張します。私たちはその

ソフトボール



インター・ホールディングス代表取締役 横山 寛

状況も垣間見られるのが現実と思う。ソフトボールの試合の進捗を

鎧橋随想

継続が鍵



アイメックス監査役 川畑 吉生

また、女房に解約したらと脅されていたので、観念して通いはじめた。

実は以前のクラブにも入会したが5回位通って間もなく解約し、振り込んだ年会費を無駄にした前科があった。

過日、秋晴れの中とは言いがたかったが、当社はソフトボール大会を実施した。勿論、社員全員参加であった。企画が伝わったところは、スポーツに縁遠い女子社員や先輩の人からは、体力を含め、大丈夫?という疑問、不安もかなりあった様である。しかし、試合開始と共にその心配は取越し苦労であった。試合も全員参加が原則であり、何10年ぶりにバットやグローブを持った社員も、不安から笑顔になっていた。

今、世間は不景気や将来の不安等から、殺伐とした秋晴れの様にも見えた。

北海道の商品取引所



コスモフューチャーズ管理部長 奥山 隆治

戦後間もない昭和26年に北海道に2つの商品取引所が誕生した。函館海産物取引所と小樽商品取引所である。両取引所とも、そのルーツを辿ると明治27年まで遡ることができる。戦後開所された当時の上場商品は、函取引所ともに当時の北海道の特産物である水産物がその中心であった。しかし、取引量は少なく、それぞれの商品の指標価格の提示が主であったようである。昭和47年4月に函館海産物取引所はその使命を終えて閉鎖に至った。

そして、北海道で唯一の商品取引所となった北海道穀物商品取引所は紆余曲折を経ながらではあるが、小豆相場場ではその存在を全国に知らしめるまでに発展していった。だが、隆盛を誇った時代は僅か30有余年の短い期間であった。平成7年4月に穀物の取引では世界第2位を誇る東京穀物商品取引所と合併し、北海道に商品取引所は存在しなくなった。

拝見・東穀取の名著復刻版
歴史の中に未来がある

東京穀物商品取引所の名著復刻活動が一段と盛んになっている。今年に入ってからでも「ある商品取引所史の一面」「東京米穀商品取引所」(東京米穀商品取引所沿革略史)「米国の穀物取引と穀倉」「米穀政策論」「米穀統制政策と米穀取引所の機能」の6点をたて続けに復刻した。

東穀取ではかねて名著の復刻に力を注いできた。たとえは平成6年に出した「江戸幕末三会所帳合商取調一件」は江戸町奉行遠山左衛門尉(遠山の金さん)が米の先物取引の実態を調べて老中水野忠邦に報告した貴重な文献。明治維新の際、



著作権問題に留意しつつ復刻された名著の数々

がみながっているが、「定期取引高の非常に大なるは、これすべて投機的空売買なり」とこれを廃止せんことを主張する者あるも当らず、この中には現物市価保険のための掛つなぎ売買も頗る多し」とある。

こうして復刻版の数々は会員に対するサービスを一歩進め、普及啓蒙にも寄与するところが大い。

賑やかに230人が参加

東穀取会員懇親会

恒例の東京穀物商品取引所会員懇親会が10月7日、東穀ホールで開催された。恒例とはいえ、平成13年は大豆ミール上場、昨年は開所50周年記念式典があったため、2年開かれず、今回は3年ぶり。

事務局だより

天候や温暖化ガス排出権のみならず、突発的軍事行動(テロ)が起きる可能性まで先物取引の対象にされるようとする時代になりまして、今昔共通しているのは様々な情報が処理された

証言・戦後先物史
中部商取再生への道(下)

前中部商品取引所理事長 伊藤 禮史

決断で、間違いはありませんでした。――既存の老化学品市場の整理も課題でした。伊藤 98年度にスフ糸市場を、99年度に毛糸糸市場を、00年度に砂糖糸市場をそれぞれ廃止しました。さらに、システム取引への移行を機に、02年3月、綿糸糸市場と蘭糸糸市場を廃止しました。老化学品市場を廃止するといっても、取引所にとっては大変なことです。綿糸、蘭糸、砂糖の3市場を合算すると、取引所の財布から会員の持分払戻金8億8、000万円が消えました。だから、02年度で会員の出資を1500口分増資し、取引所の財産を補強しました。

明日への道筋つける

同時に、02年度には懸案の処理を急ぎました。旧名古屋穀物砂糖取引所のビルを1億1、500万円で売却しました。遊んでいた取引所ビル2階の立会場を取り壊し、3、500万円かけて商取引所につくりかえました。



中部商品取引所ビル

その一つは取引のコンピュータ化でした。私が理事長に就任したのが2000年5月で、01年11月、費用総額7億4、000万円を投じ、コンピュータによるシステム取引に移行しました。売買仕法は板寄せ仕法を採用しました。システム取引には東取のザラバ仕法と、東京穀物商品取引所の板寄せ仕法の2つの流れがあります。日本市場伝統の板寄せ仕法の選択は一つの

(おわり)